

学校番号	4	学校名	沼津聴覚特別支援学校	校長名	庄司 達夫
------	---	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	魅力ある聴覚特別支援学校の教育の推進	教職員が、特別の教科道徳各教科の授業、日常生活の場面において、人権教育や心の教育を意識した指導を行うことができる。 (教職員アンケート AB100%)	96%	A	自己肯定感、自己有用感が高められるような働きかけや職員間の情報共有をすることで、適切な指導につなげることができた。 子どもに対する言葉掛けに気を付けていく。
		児童生徒が自分の良いところや友達の良いところを答えられる。 (児童生徒アンケート AB100%)	84%	B	肯定的な言葉がけを行ってきたことで、自分自身だけでなく、友達に対しても良いところを見つけられるようになってきた。 自分自身を見つめ直す時期も考慮し、対応していく。
		教職員が、子どもの命を守る方法がわかり、適正な判断や行動ができる。 (教職員アンケート AB100%)	98%	A	防災計画書と危機管理マニュアルに応じて、内容の改善を図ることができた。 訓練に対する意識を高めていく。
		幼児児童生徒が命を守る方法がわかり、適切な行動をとることができる。 (児童生徒アンケート AB100%)	94%	A	訓練や事前事後の学習を通じて、自分で考え、行動できる場面が増えてきている。 訓練の日程を検討する。
		安全な学習環境を整備することで、幼児児童生徒が安心して学習活動を行うことができる (教育活動において不備が元となるケガでの緊急対応0件)	90%	A	こまめな熱中症対策や保護者との医療的ケアの連携などを行ったことで大きな事故やケガなどなく過ごすことができた。 ヒヤリハットの情報を共有していく。
		教職員自身が、働きやすいと感じ、気持ちよく仕事を行うことができる。 (教職員アンケート AB100%)	89%	B	積極的にコミュニケーションや挨拶などを通じ、気持ちよく働くことができた。 職員室での声や伝え方に気を付けていく。
		放課後を有効に活用できる。 教職員が、効率よく仕事を行うことができる。 (時間外勤務 月45時間0人)	94%	A	あらかじめ資料を提示したり、情報機器を活用したりすることで、効率よく会議を行うことができた。
		紙などの消耗品、PC棟の情報機器の適切な管理、運用がスムーズに行うことが	98%	A	消耗品などいつも使えるように環境が整っていた。 情報機器の使用がスムーズに行える

		できる。 (教職員アンケート100%)			ようにする。
イ	聴覚障害教育のセンター的役割を積極的に発揮する	ニーズに応える対応を行うことができる。 96%	A	今後も、ニーズにこたえ丁寧に対応していく。	
		外部への発信を積極的に行事ができる。 (教職員アンケート AB100%) 94%	A	昨年度と比較し、外部への発信は多くできている。 更に発信できるよう工夫していく。	
		相談への対応をスムーズに行うことができる。 (教職員アンケート AB100%) (保護者アンケート AB100%) 96%	A	各関係機関と連携し、丁寧に対応していく。	
		学校間での連携を図ったり、本人の実態に即した指導を行ったりすることで、通級生が安心して学びに向かうことができる。 (保護者アンケート AB100%) 100%	A	引き続き、連絡ノートでの情報共有や難聴理解授業を通じ、保護者と連携を図っていく。	
	継続した教職員の専門性の向上の取り組み	教職員が、学習会や研修を通して専門性の向上を図ることができる。 (教職員アンケート AB100%) 96%	A	他学部の講師招聘授業や自立活動学習会が充実していた。今後も研修会の充実を図る。	
		自己の向上させたい専門性について目標を掲げ、それに向けて意識的に取り組むことができる。 (教職員、各自の専門性に関する自己目標達成率100%) 92%	A	一人一人が専門性に対する課題を持ち、研修に取り組むことができた。 継続して取り組んでいきたい。	
		読書指導や日常生活を通して、幼児児童生徒の言語の拡充を図ることができる。 (教職員アンケート AB100%) 98%	A	言葉の掲示板や作文指導など丁寧に行ってきた。読書指導にも力を入れ取り組むことができた。 言葉に対するアンテナを高くし、拡充を図っていく。	
ウ	聴覚障害教育の専門性を生かした「つながる学び」による学力向上	教職員が、幼児児童生徒にわかる授業に向け、工夫したり改善したりすることができる。 (教職員アンケート AB100%) 94%	A	一人一聴覚授業や講師招聘などを行い、授業改善を進めることができた。 ICT 機器を積極的に活用していく。	
		児童生徒が、「授業をとおしてできるようになったことが増えた」と答える。 (児童生徒アンケート AB100%) (保護者アンケート AB100%) 100% 94%	A	子供たちの「できた」「わかった」を引き出す授業づくりを継続して取り組んでいく。面談や連絡ノートを活用し、成果を家庭と共有していく。	
		他者（他学部を含め）の授業を参観し、「より良い言語指導」に基づいたアドバイスをしたり、アドバイスを受けて授業改善したりすることができる。 (教職員アンケート AB100%) 96%	A	OJT や教科部会を通じ、他者の授業を参観したり、他学部との情報共有を行ったりすることで、授業改善につながった。授業の質を高められるようにしていく。	

様式第3号

	<p>幼児児童生徒の実態に即した視覚的支援を活用することができる。 (教職員アンケート AB100%)</p>	96%	A	視覚情報（板書、資料の提示、電子黒板等）を活用できた。さらに効果的な活用を探っていく。
	<p>学年や幼児児童生徒の実態に応じた指導を意識して行うことができる。 (教職員アンケート AB100%)</p>	96%	A	成長段階に応じ、手話表現の指導や生活面の指導を行うことができた。実態が多様化してきているため、生活年齢のみを考慮して対応することが難しくなっている。
	<p>情報の共有を通して、幼児児童生徒の実態がわかり、授業の実践につなげることができる。 (教職員アンケート AB100%)</p>	94%	A	話し合いや個別の指導計画の共有を行ったことで、実態把握につなげることができた。他学部に授業に入る時の授業の持ち方を工夫する。
<p><b>社会自立に向けや地域ぐるみの教育の充実</b></p>	<p>交流や地域施設、人材の活用を行い、幼児児童生徒の学びの機会を設けることができる。 (教職員アンケート AB100%) (児童生徒アンケート AB100%)</p>	98%	A	外部人材を活用し、より多くの経験ができたたり、つながりを持ったりすることができた。
	<p>幼児児童生徒や保護者が、自分（子供）の課題や将来の生活や進路について考えることができる。 (教職員アンケート AB100%) (保護者アンケート AB100%) (児童生徒アンケート AB100%)</p>	98% 100% 100%	A	保護者や生徒に向けた進路講演会やお便りなど、情報発信を積極的に行うことができた。更に、保護者の意識を高められるように工夫していく。